

令和 7 年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第 5 回専門部会（テーマ別分科会） 議事要旨

日 時	令和 7 年 10 月 15 日（水） 15：30～17：00		
場 所	岐阜市役所 6 階 6-1 大会議室		
出席者	一般・特定・障害児相談支援専門員	16 名	
	地域包括支援センター	16 名	
	岐阜市民生委員・児童委員協議会	5 名	
	委託事業所	4 名	
			（合計 41 名）

○検討テーマ…

地域とつながるためにできること～介護保険サービス分野を参考に～

障がいのある方と地域のつながりの現状やインフォーマルな支援、介護保険サービスの支援者や民生委員・児童委員の取組等を知り、障害福祉サービスの支援者としてできる取組等について協議した。

1. はじめに  
・趣旨説明

2. 介護保険サービス分野での取り組み（機能強化型地域包括支援センター）

●岐阜市北ブロック機能強化型地域包括支援センター 露武尊 晴美 様

地域包括支援センターの活動について。高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して暮らすための総合相談の窓口として、地域で活動している。包括支援センターは、平成 18 年度に市内 13 か所から始まり、主任介護支援専門員と保健師、社会福祉士を配置している。高齢者の人口が増えてきたことと、地域包括ケアシステムの推進に大切な機関ということで、現在は 19 か所となった。30 年の 4 月から、基本的な人員配置を強化するために一人増員し、その年の 7 月に機能強化型包括が包括支援センターのバックアップをする機関として設置された。今では、包括を知る方々がかなり増えているが、最初から周知されていたわけではなく、様々な場所に顔を出し、顔の見える関係づくりを積極的に行っている。今では、自治会やまちづくり協議会の会議等にも参加し、地域のイベントにも参加できるようになった。また、それぞれの包括支援センターで作成した広報紙の回覧を地域にお願いし、民家、商店、金融機関、医療機関等で設置している。内容は、介護予防の事、権利擁護の事、高齢者虐待防止や認知症について掲載し、その相談窓口として包括支援センターがあることをお知らせしている。

●岐阜市南ブロック機能強化型地域包括支援センター 井上 奈緒美 様

地域との関わりの一つとして、地域包括支援センター連絡協議会があり、どの包括支援センターも毎年 1 回開催している。内容は各包括支援センターで少し異なるが、前年度の活動報告と今年度の活動計画の報告を行っている。参加者も各包括支援センターで異なるが、自治会連合会長と各地区の民生委員の会長は参加してもらっている。地域の役員や警察消防、保健センターや行政の方にも声をかけている。連絡協議会を通じて、包括支援センターの活動を知ってもらうとともに、民生委員の方には包括支援センターに対する日頃のご意見を伺っている。地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備等を同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法の一つである。包括支援センターが主催し、関係する多職種が共同となって、高齢者の個別課題の解決を図るとともに、ケアマネジャーへの自立支援に資するケアマネ

ジメントの実践力を高めている。地域ケア会議を通して、地域支援ネットワークの構築や地域課題の把握を行っている。民生委員の方にも多く参加してもらい、ケアマネジャーとの顔の見える関係づくりを行っている。民生委員の協議会で民生委員の方へお伝えしたいことがあると、包括支援センターが参加してお伝えしている。また、ひとり暮らしの登録や緊急通報装置の利用を希望された方は、民生委員に報告している。ひとり暮らし等の登録をしている方を民生委員が訪問する際は、包括支援センターも同行し、実態把握を行うこともある。また、包括支援センターが把握していない地域の方で心配な方がいると、民生委員が知らせてくれて、包括支援センター職員と一緒に訪問している。ケアマネジャーは、介護サービス計画を作成し、配慮が必要な方の状態を評価し、適切なサービスを結ぶ専門職である。地域ケア個別会議や地域ケアネットワーク会議を通じて、民生委員とケアマネジャーが顔の見える関係を構築すると、高齢者の課題がより解決しやすくなっていく。その地域に住む民生委員、その人個人の情報をよくわかっているケアマネジャー、包括支援センターが双方を繋ぐことで、本人の事をより知ってもらうことに繋がる。その結果、見守りの目が増えて何かあった時に相談が入る環境を作ることができる。本人の障がいについて地域で知ってもらうことで、地域の高齢者や障がい者の理解がより広がると考える。

### 3. グループワーク「地域のつながりについて」

- ・各支援者がつながっているインフォーマル支援はどのようなものがあるか
- ・どのようにしてつながることができるか

#### <意見>

- ・民生委員から、包括支援センターは 365 日 24 時間いつでも相談できるところが頼りになるとの意見があった。また、習い事をしているところや新聞屋などから、何かあったら民生委員に繋がり、そこから包括支援センターに連絡が行くという方法で、安否や状況の確認ができることを知った。障がいをお持ちの方は、相談支援専門員や福祉サービスを利用されている方が多いため、民生委員が相談を受けることは少ないという意見があった。
- ・新聞屋や地域の方からの噂話などでも、情報を得ることができるという話があった。また、繋がっていく資源について、具体的な場所まで掘り下げて話をした。
- ・相談支援専門員と包括支援センターの方々が出したインフォーマルの数に 4 倍程差があり、相談支援専門員が少ない。相談支援専門員は、ケアマネジャーに比べ利用者と会う機会が少ないこともあり、そこまで地域を意識していない印象があった。また、活動エリアが相談支援専門員自身の身近なエリアではない状況で、インフォーマルな支援を知り、活用することは難しいと感じた。

### 4. まとめ

#### ●井上様

地域包括支援センターは地域に根付いてきたが、それにより、高齢者以外の相談が入ることが多くなった。また、24 時間連絡が取れないわけではないが、職員側にも限界はある。また、地域活動については、包括支援センターとサテライトや行政等も含めて連携していくことが大事と考える。地域ケア会議等の繋ぐ場を開いているのは包括支援センターなので、包括支援センターの方々はサテライトや相談支援専門員へ、会議への参加を呼び掛けて欲しい。

## ●露武尊様

私達が知らないだけで、その人が持っているネットワークは必ずある。生きてきた中で様々な関りがあり、もし切れていたらそこを繋ぎ直していくことも必要であるし、今までの繋がりを見直す機会も重要だと考える。本人が、家族を含め周囲に事情を伝えていない場合もあり、障がいのある方に私たちが関わっていることを地域の方に伝えられるかは個々の事情で違うが、本人の了解を得ながら少しでも地域に繋がる環境を作っていくことが今できることと考える。様々な機関と確実に繋がること、その方が地域でずっと暮らしてゆくために重要であると改めて認識した。

今回のテーマ別分科会をきっかけに、協力を深めていけるような関係が築けるとよい。

## 5. 当日の様子



## 6. 当日アンケートの結果

### ①第5回テーマ別分科会の内容はいかがでしたか

参考になった	… 6 5. 0 %
概ね参考になった	… 2 5. 0 %
ふつう	… 1 0. 0 %
あまり参考にならなかった	… 0. 0 %
参考にならなかった	… 0. 0 %
どちらでもない	… 0. 0 %

### ②介護サービス分野での取り組み（機能強化型地域包括支援センター）の講義はいかがでしたか

参考になった	… 4 5. 0 %
概ね参考になった	… 3 5. 0 %
ふつう	… 2 0. 0 %
あまり参考にならなかった	… 0. 0 %
参考にならなかった	… 0. 0 %
どちらでもない	… 0. 0 %

③グループワークはいかがでしたか

参考になった	… 60.0%
概ね参考になった	… 30.0%
ふつう	… 10.0%
あまり参考にならなかった	… 0.0%
参考にならなかった	… 0.0%
どちらでもない	… 0.0%

④グループワークの時間について

短い	… 5.0%
やや短い	… 30.0%
ふつう	… 60.0%
やや長い	… 5.0%
長い	… 0.0%

⑤今回のテーマについてご感想、ご意見があれば教えてください

<一般・特定・障害児相談支援>

- ・普段なかなか関わりのない民生委員の方のお話が聞けて有意義だった。
- ・民生委員は本当に有志がある方しかできないと思う。民生委員も高齢化が進み、今後担い手も少なくなってくると思う。民生委員の業務範囲も含めて考えていく必要のある課題だと思った。
- ・ケアマネと相談員の関りの大きな違いを感じた。なるべく利用者様との関係を築けるよう日々努力してはいるが、相談員は毎月モニタリングがないので関わりの薄さを感じた。今後高齢化が進んでいる中でケアマネとの関係も必要であると感じた。
- ・介護保険に比べ障害福祉が地域の受け入れが未熟で、インフォーマルを多く活用するに至っていない。また、相談支援専門員の担当区域は広いことも難しい要因になっている。
- ・民生委員のつながりの広さ、介護保険の地域への働きかけがとても参考になった。
- ・包括等の高齢にかかわる皆さんはインフォーマルな支援をたくさん活用されていると思った。何を取り入れられるかと思った時に、相談員は福祉サービスや医療、教育に頼りがちで地域との繋がりがあまりないなと感じた。しかし災害が起きた時は、地域の方の力が不可欠になってくると思うので知ってもらうのは大切だと思った。

<機能強化型地域包括支援センター、地域包括支援センター>

- ・今回の会議のテーマは今まで協議した経験がありそうでなかった内容だった。障がい分野の相談支援の実態を聞いたことや介護分野との交流ができ新鮮だった。
- ・インフォーマルサービスについて、意見交換ができてよかった。
- ・地域包括は介護保険分野には強いかもしれないが、障がい分野は難しいイメージを持つ人が多い。お互いの強み弱みをカバーし合えるのではないかと感じた。包括だけでなく、障がいの相談員も一緒に出来ることは一緒にしていきたいし、地域を知ったもらうためにも良いと感じた。
- ・他の職種の関り先について知ることができた。
- ・障がいのサービス事業所の方と連携することや話をする機会はほとんどないため、色々聞けて参考になった。

- ・障がいの相談支援員と介護保険のケアマネジャーは、同じように計画を立ててサービスを利用できるように段取りを組むが、その後のかわり方に違いがあることが分かった。また、障がい者を支援する人たちは、当事者と一緒に地域とつながるまでには至っていないことが分かった。
- ・障がいの相談員さん達となかなかつながる機会がないため仕事内容や動きなど話す機会が欲しかった。

#### <民生委員・児童委員>

- ・民生委員の活動について、発言の機会を作って頂き、ありがとうございました。また、相談支援専門員の方など、グループワークで、意見交換できてよかった。
- ・地域とつながるためには、地域を知り自ら入り込むことが必要と思う。地域のつながりが希薄となる現状では大変困難なこと。地域に住む人々に関心を持ちその生き方や考え方を寛容的な思考で受け止め活動していくことが必要だと思う。おおらかで少しおせっかいな活動が求められているのではないか。
- ・立場が違う方の意見が聞けてよかった。

#### ⑥障害者総合支援協議会（テーマ別分科会）で、今後取り上げてほしいテーマ、内容があればご記入ください

- ・障がい者が地域で安心して暮らせるには？
- ・個人情報取り扱い
- ・障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行など、介護保険と関わるテーマがあれば、また参加したい。
- ・精神障がいの方と関わる事が多いが、すべての人が手帳を持っているわけではない。地域で暮らしていくための周りの理解をどうしていいのかわからない。本人は自分の事を話しても良いと言っても、あまりにプライベートな事は話しづらいし、そこまで話して地域の方が理解してくれるのかという不安もある。
- ・就労選択支援の利用が難しい事例への対応について
- ・障害福祉サービスを利用している方が高齢者になった場合、介護保険サービスのスムーズな移行
- ・主任相談支援専門員との質問対話時間が欲しい。困難事例の利用者様との関り方どのようにしていくと良いのか。暴力的で暴言を吐かれる方、話が長く本題がコロコロ飛ぶ方など穏やかに話ができる手法を知りたい。